

主 題	「認知症の利用者とその家族や地域との交流」
副 題	認知症カフェを通しての利用者やその家族の変化

認知症のケア	地域ケア	研究期間	4ヶ月
--------	------	------	-----

事業所	社会福祉法人フロンティア 通所介護 養浩荘高齢者在宅サービスセンターいけよんの郷		
発表者：濱野 律哉（はまのりつや）		アドバイザー：山内 雅代（やまうちまさよ）	
共同研究者：五十嵐 裕二（いがらしゆうじ）、他職員			

電 話	03-3986-4165	E-mail	yokoso@frontier-sw.or.jp
FAX	03-3986-4178	URL	http://www.frontier-sw.or.jp/

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	池袋駅から徒歩10分ほどの所にある、東京の都心部にある事業所です。 特養を始めとして、ショートステイやヘルパー派遣、居宅介護事業所や地域包括支援センターなどを併設しています。 デイサービスは平成9年に開設し、今年で17年目となります。
------------------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》

家族会のありかたを再考し、認知症の方の家庭での困り事を気軽に語れる場として座談会（茶話会）を実施したが定着せずに、他の方法を検討しているところであった。

また、事業所としてより深いアセスメントを行おうと取り組む中で、個別に利用者の自宅訪問を進めていくと、ご家族との会話から、「このごろは一緒に出かけることもなくなった」との話が多く聞かれた。

しかし事業所では定期的に外出レクリエーションなどを行っていたものの、利用者主体のレクリエーションととらえていたために、ご家族をお誘いすることもなかった。

そういったことから、発想の転換が求められているところであった。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

認知症の方とその家族とともに日頃の悩み事や普段お聞きできないような話をお聞きしながら、在宅でのケアを継続できることが目的であった。

認知症のある高齢者が、地域の中でこれまでと変わらない生活ができることを実現し、地域や家族との関係性を継続できることを期待した。

法人の障害者施設を地域の社会資源として活用することや、地域包括支援センターの協力、そして地域住民にも参加を呼びかけることで、高齢者、障害者、地域住民の交流の他、地域住民の介護に対する困りごと等を相談できる場となることを期待した。

認知症の方ご本人が、自身の存在意義を再確認できるよう対応したい。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ① 対象者は認知症対応型通所事業所に通う利用者のご家族を中心に、その他不特定の方々にお越しいただく。
- ② 同法人が運営する障害者施設のカフェで、音楽会や利用者が取り組んだ作品展示等の様々な催し物を行う。
- ③ 昼食後のコーヒータイムとしての時間帯がスムーズに出かけやすい。
- ④ 事前に障害者施設の担当者と打ち合わせを行う。また地域の方などの相談にも対応できるよう、地域包括支援センターの職員による出前相談を実施する。
- ⑤ 4～5名の職員が同行し、カフェのスタッフや地域包括支援センターの職員が各々役割を果たしながら、利用者と家族、地域住民の交流が図れるよう援助する。
- ⑥ 各担当で主となる責任者を決めて、情報の共有をはかる。
- ⑦ コーヒーセット代金、一人約¥150～¥350
必要道具は催し物の内容により異なる。
- ⑧ 各担当から多方面への参加の呼びかけを行う。

《4. 取り組みの結果と考察》

参加ご家族から、「夫婦で一緒に喫茶店にくるなんて何年ぶりかしら」など喜びの声が聞かれた。また別のご家族は、「地域包括支援センターの職員に家での困りごとの相談をすることができ、助言してもらえた」とのことであつた。そして身体状況により普段はなかなか外に出ることのできない利用者も「地域の方と久しぶりに会話をすることができて懐かしかった」と話され、利用者・家族にとってカフェでの交流が生活の変化をもたらし、一般型・認知症型通所介護に通う利用者が日頃から取り組んでいる作品を飾ることで、利用者の喜びと創作意欲の向上にもつながった。

《5. まとめ、結論》

認知症の利用者とその家族が安心して過ごすことができ、また日頃困っていることなどを専門の職員等に相談できる場所として認識してもらうことができた。

一般の方や地域の民生委員、ボランティアと交流することで、認知症ケアの問題を家族のみで抱えるものではなく、地域全体で対応する足がかりができたと思う。

利用者の笑顔を見ることで、自然と職員も笑顔になる。もちろんご家族も笑顔になる。

一人の利用者を中心に、かかわりのある人々の関係性が少しずつ「良い方向」に変化している様子が実感できた。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うに当たり、ご本人、ご家族には口頭で確認をし、本研究発表以外には使用しないこと、またそれにより不利益を被ることはないことを説明し、回答を持って同意を得た。

《7. 参考文献》

認知症カフェのあり方と運営に関する調査研究事業報告書（公益社団法人認知症の人と家族の会）

《8. 提案と発信》

今後は、通所介護利用者のみならず、通所介護などになじめず、日中過ごす場所が見つからずに引きこもりがちになっている方へのカフェとしての場所の提供や、認知症により生活に支障をきたしているご本人や家族を支援する場としても実施していきたい。

また障害者施設が地域の社会資源として認知されるようになり、地域の身近なカフェとしての定着が期待される。

【メモ欄】